わたしの街の消防団

維和中学校一年　中田　つかさ

もし、自分の家が火事になったら、どうなるのだろうか？

私は、維和島という人口一七九〇人、面積六・四〇平方キロメートルの小さな島に住んでいます。ここには、消防署はなく、代わりに消防団が活躍しています。

小さな島なので、一軒一軒の家が近く、火事になったら火が移ってしまい、大変なことになります。だから、そうならないために消防団の方がおられます。

消防団には、各地域のお父さんやおじいちゃんが入団しておられます。しかも、その人たちのほとんどは自分の仕事を持っています。農業をやっている人もいれば、漁業をやっている人もいます。

私の家は、お父さんもおじいちゃんも消防団には入団しておらず、あまり消防のことはわからないので、おばあちゃんに消防のこと

を聞いてみました。

維和島の消防団は、山火事でホースがとどかない時に、水を入れた小型タンクを背負って山まで行き、火を消していたそうです。その時、おばあちゃんは、とてもびっくりしたそうです。

他のことも聞いてみると、消防団の人は、火事のないときでも、消火器の使い方や火事のときの連係プレイを公民館の近くで訓練されておられるとのことでした。

日ごろから火事に備えて訓練までされておられるので、いざと言うときに、すぐに行動できるのだと思いました。

もう一つ、おばあちゃんの話でびっくりしたことがあります。それは、災害時に人を捜し出すのも仕事だということです。

私は、今まで警察の仕事だと思っていましたが、消防団の人もされているのに驚かされました。

このように、少し聞いただけでも、驚かさ

れたことがたくさんありました。

何より、消防団の人は、火を少しでも早く消さなければなりません。

もし、私の家が火事になったら、私はパニックになって、何をすればいいのかわからなくなると思います。まして、一人で火事を消せるはずもありません。

そんな時、頼りになるのが消防団の方です。

消防団の方は、火事が発生すると、自分の仕事をやめて、消火活動をされています。とても大変な仕事だと思います。

だから、私たちは日頃から、防火に心がけ火事を出さないことが大切だと思います。